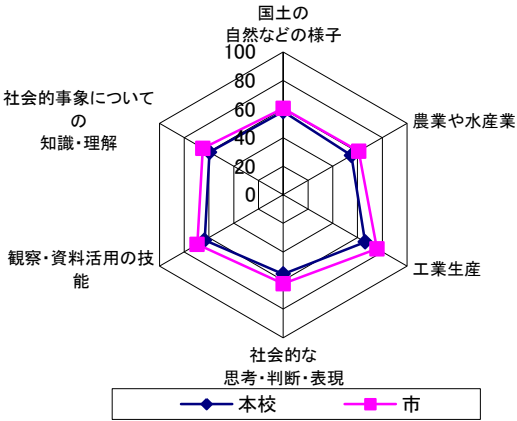


宇都宮市立上河内西小学校 第5学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	国土の自然などの様子	58.2	60.4
	農業や水産業	55.0	61.0
	工業生産	66.1	75.7
観点別	社会的な思考・判断・表現	55.5	62.2
	観察・資料活用 of 技能	63.5	69.4
	社会的事象についての知識・理解	59.6	65.0



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然などの様子	世界の主な大陸や海洋の名称や位置については、市の平均を上回りよく理解しているといえる。日本の近隣の主な国の位置と名称についての理解をもとに資料を読み取ることについては、正答率が90%を超えており大変良くできたといえる。しかし、低い土地に住む人々の工夫については表現することについては、市の平均を大きく下回り41.9%しか正解できなかった。	基本的な知識は、おおむね身に付いている状況にあるといえる。しかしそれらをもとに分かることを記述することが苦手な傾向にある。授業の中で分かったことや考えたことを発表したり文章としてまとめたりする活動を意図的に取り入れ、表現することへの抵抗を少なくしていきたい。
農業や水産業	日本の米作りに関する資料の読み取りや漁業の種類と生産量の変化のグラフなど基礎的な資料の理解が十分でない。特に漁業についてはその内容を忘れてしまっている様子がうかがえる。一方、食糧を輸入に頼った場合の問題点や課題に対して必要な資料を選択する問題では、市の平均を上回った。	米作りに関する資料の読み取りや漁業の種類ごとの生産量の変化などについて、もう一度復習し基礎的なことを確実に身に付けられるようにする。特にグラフ等の資料の読み取りが苦手な児童については、個別に支援を行うようにする。
工業生産	自動車生産については、関連工場と組み立て工場の関係については、よく理解されていた。しかし、日本の工業地帯の特色や工業生産についての資料の読み取りについては、市の平均を下回っている。	グラフや地図の読み取りについては、これまで作業をしたり読み取り方を確認しながら授業を進めてきた。十分できる児童がいる一方で、まだ苦手としている児童も見られるので、今後も資料の扱いを丁寧に指導していくとともに、読み取ったことをどのように表現したらよいのかを具体的に伝え、一人ひとりが確実に技能を身に付けられるようにしていきたい。